

第3回 名勝木曽川の堤防整備に関する検討委員会

議事要旨

堤防・護岸の修景について、意見交換を行った。

堤防・護岸の修景

〈意見交換〉

- 堤防整備に伴う露岩の消滅範囲が、今回の堤防位置の見直しにより前回時点と比べ拡大した。理由は是認できるものだが、これ以上の拡大とならないよう、配慮が求められる。
- コンクリート壁面の修景は、提案のとおり洗い出し処理が適していると考えられる。ただし、洗浄水のアルカリ度が高いなどの課題があるため、回収方法の具体化が必要となる。
- 階段や坂路の外壁を玉石積みとする意匠の提案も、伝統的な修景として適切と考えられる。
- 名勝木曽川の景観は、主な色相として川面の碧青色と露岩の赤褐色、樹林の緑で構成されている。堤防・護岸の人工的な灰色が加わることにより違和感が生じないように、色調の工夫が必要ではないか。
- 今回資料の3Dイメージ画像では、色調の違いが際立ち過ぎている。実際の色調は、スケッチに水彩で色付けするように、境界がある程度曖昧になるのではないか。
- コンクリートの色調は、使用する骨材の種類や顔料の添加により、ある程度の工夫ができると考えられる。仕様を定める前に確認の機会を設けるよう、試験施工等を検討してほしい。
- 色調の変化を緩和する手段として、コンクリート壁面の前面にオギ等の植生を促す地帯の整備を検討してはどうか。その場合、治水上の支障の有無や土壌の乾湿等を推定する必要がある。
- 植生帯の整備は露岩の被覆につながりかねないため、護岸表面の苔や前面の植物の自然な生育に委ねてはどうか。
- 名勝木曽川の住宅地側からの眺望についても、堤防整備に伴い大きく変化する。そのことの評価も課題となる。
- 3Dイメージ画像の資料には、堤防沿い住宅地側の管理用通路の眺望を加えると、堤防完成後のイメージがつかみやすくなる。また、堤防に計画高水位の位置を重ねると、洪水の規模と堤防整備の効果を想像しやすくなる。
- 堤防整備に伴い水神碑の移設が必要となるが、どの辺りとするのか。水神碑の位置から川を眺望できることが重要と考えられる。
- 堤防の階段の手すりはどうするのか。また、坂路で河川側へ進入した消防車等の車両の動線は、河畔の利用や坂路の退出時にどのようなになるのか、細部の具体化も進めてもらいたい。
- 今後の検討として、コンクリートの色調や玉石積みの風合いなど、適切な施工を担保する仕組みの確立が極めて重要となる。

今後の進め方

次回会議では、細部のデザインを具体化した設計や施工の方法、実行性確保の仕組みについて、案を示し意見交換を行う。